

KiSS-18 KiSS-18

1 測定概念

社会的スキルを身につけている程度を測定する。社会的スキルとは「対人関係を円滑にはこぶために役立つスキル(技能)」と定義される(菊池1998)。
ゴールドステインら(1988)は、若者にとって必要な社会的スキルを大きく6種類に分類した。

- ① 初歩的なスキル
- ② 高度のスキル
- ③ 感情処理のスキル
- ④ 攻撃に代わるスキル
- ⑤ ストレスを処理するスキル
- ⑥ 計画のスキル

この分類にもとづいてゴールドステインらが作成したスキルのリストをもとに、菊池(1998)が項目を作成した。したがって本尺度は、若者にとって必要な社会的スキルについて測定するものであり、上記6種類の社会的スキルを含んでいる。

2 採点方法

いつもそうでない……………1点
たいていそうでない……………2点
どちらともいえない……………3点
たいていそうだ……………4点
いつもそうだ……………5点
と得点化する。

KiSS-18の質問項目	
1	他人と話していて、あまり会話が途切れないほうですか。
2	他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。
3	他人が助けることを、上手にやれますか。
4	相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか。
5	知らない人とでも、すぐに会話が始められますか。
6	まわりの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか。
7	こわさや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか。
8	気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか。
9	仕事をするとき、何をどうやったらよいか決められますか。
10	他人が話しているところに、気軽に参加できますか。
11	相手から非難されたときにも、それをうまく片付けることができますか。
12	仕事の上で、どこに問題があるかすぐに見つけることができますか。
13	自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか。
14	あちこちから矛盾した話が伝わってきても、うまく処理できますか。
15	初対面の人に、自己紹介が上手にできますか。
16	何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか。
17	まわりの人たちが自分とは違った考えをもっている、うまくやっていけますか。
18	仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じないほうですか。

各施設の調査方法の概要

1 調査にあたっての注意点

本調査研究事業のテーマである「人間関係」は、事業中の人間関係ではなく、日常の人間関係についてのどのような影響があるかに重点をおいた。
そのため、夏季休業の前や休み明け等に調査時期を設定し調査を行った。

2 各施設の調査方法

- 国立立山青少年自然の家
 - 【事前】1週間前 郵送にて
 - 【事後】1ヶ月後 郵送にて
- 国立若狭湾青少年自然の家
 - 【事前】1ヶ月前 郵送にて
 - 【事後】1週間後 郵送にて
- 国立妙高青少年自然の家
 - 【事前】2週間前 事前説明会時に
 - 【事後】1ヶ月後 郵送にて
- 国立能登青少年交流の家
 - 【事前】1週間前 学校に依頼
 - 【事後】1週間後 学校に依頼
- 国立乗鞍青少年交流の家
 - 【事前】事業初日
 - 【事後】2週間後 郵送にて

